

ほけんだより

令和元年6月11日 松波小学校

1. 4年生は眼科検診があります！

6月12日(水) 午後1時15分から 保健室

目や眼瞼(目のまわり)の病気がないかを調べます。

さあ、じゅんび！！

- 1 前の日は、早めにねましよう。ねぶそくは目が赤くなってしまいます。
- 2 朝、顔をしっかりあらいましょう！めやにがついたままの人はいませんか。
- 3 かみの毛が目にかからないようにしておいてくださいね。
目の病気になりやすくなります。



ねぶそくは目があかくなっちゃうぞ！

ねぶそくちゃうい！

けんしんのじゃまになります。



まえがみだいじょうぶ？



目はこすらない！

けんしんのまえにめをこすったりしないようにね。

★医師にしっかりと名前を言い、あいさつをしましょう。

(例：山田太郎です、お願いします。→ありがとうございました。)

★担当は宇出津総合病院 萩原先生です。

★おうちの方へ：裏に、子どもに多い眼科の病気を載せましたので、参考にしてください。検診結果は、通知が必要な場合(要受診や要経過観察など)のみ、用紙でお知らせします。異常なしの場合は、後日健康ノートでお知らせします。



なるべく休まないようにしましょう！

屈折異常（近視・遠視・乱視）

何かを見るとき、目は水晶体の厚みを調節してピントを合わせています。

学校健診の最大の目的は低視力の児童・生徒をみつけて、日常生活・学校生活に不都合がないように眼科受診につなげることです（健診で低視力の原因までは特定できません）。

近視

遠くにはピントを合わせることができませんが、近くにはピントが合うところがある状態です。つまり、遠くは見えにくいのですが、近くは困らずに見える状態です。めがね（凹レンズ）で矯正します。

遠視

軽度の遠視の場合、調節（遠くから近くにピントを合わせる機能）でピントを合わせられるので、よく見える目という誤解があります。しかし、強い遠視では、近くにも遠くにもピントを合わせられません。めがね（凸レンズ）で矯正します。

遠視は弱視（*）の主要な原因の一つです。遠視が原因の弱視はめがねをかけることが治療の第一歩です。

乱視

目の縦方向と横方向のピントの合う位置が異なる状態です。近視や遠視と同じように補正レンズで矯正します。

*弱視

何らかの原因で視力の発達が遅れているため、めがねやコンタクトレンズを使用しても見えにくい状態です。「長期間、眼帯をしていた」「屈折異常を放置していた」など原因は様々です。視力が成長する期間（おおよそ小学校入学前まで）内であれば、治療が可能です。

斜視

症状

両目を開いた状態で、一方の目がまん中にない状態です。ずれている方向によって、外斜視・内斜視・上斜視・下斜視があります。常に健康な目だけで物を見ている状態です。

治療

症状によって治療法が異なります。いずれにしても治療や矯正が必要な場合はできるだけ早いスタートが望まれます。

麦粒腫

症状

俗にいう「ものもらい」。細菌の感染でまぶたの一部に赤み、痛み、腫れが生じます。化膿が進むと腫れた部分が自然に破れて膿が出ます。膿が出れば回復に向かいます。

治療

抗生物質の点眼や内服を行います。化膿が進んでいるときは、切開して膿を出すことがあります。汚い手で目をこすらないように注意します。